



詫間町文化祭に作品を出品

恒例の詫間町文化祭が11月15日～16日に詫間町社会福祉センターで開催され、詫中生の作品も多数出品されました。作品は、美術30点、書写24点と食育コーナーのパネルです。また、15日には調理員さんによる「試食コーナー」も開かれ、好評を博しました。



文化の秋にふさわしく詫中生が多くの実績を上げています。最近では、三豊市の防犯ポスターで最優秀賞1名と優秀賞3名、税に関する作文では県知事賞あわせて県納税組合最優秀賞1名と地区納税組合会長賞1名、交通安全意識高揚ポスターでは2名が佳作入選しています。

スポーツ活動に文化活動に、詫中生の力が発揮されています。

野心を持つということは楽しいものだ

NHKで放映していた「花子とアン」を知っていますか。『赤毛のアン』の翻訳者として有名な村岡花子さんの生涯を題材にしたお話でしたが、みなさんは『赤毛のアン』を読んだことはありますか。詫間中学校の図書室にも、村岡さんが翻訳したものと他の翻訳者の2冊がありました。主人公のアンは、孤児院から年老いた兄妹の暮らす「グリーンゲブルス」と呼ばれる家間違えてやってくるのですが、そのアンを育てることを決心した兄妹とアンとの生活とアンとの成長ぶりを描いた物語です。アンは、ある事件がきっかけで不登校になったり、虚栄心から髪を緑に染めたり、間違えて腹心の友のダイアナにブドウ酒を飲ませてしまいダイアナのお母さんから今後一切ダイアナと遊ぶことを禁じられたり、様々な失敗を繰り返しながら成長していきます。そのアンが地元アヴォンリーの学校を卒業して町にあるクイーン学院に進学し一人暮らしを始めたときに、学校でエイブリー奨学金(奨学生1名に選ばれると大学に4年間通うための奨学金をくれる)があることを知り、次の決心をしました。

「一生懸命に勉強さえすれば取れるというのなら、必ずそれを取ってみせる」とアンは決心した。

「あたしが文学士になったら、マッシュウ小父さんがどんなによこぶかしら。ああ、野心をもつということは楽しいものだわ。こんなにいろいろと野心があってうれしいわ。限りがないみたいだけど、そこがいいんだわ。一つの野心を実現したかと思うと、また別のがもっと高いところに輝いているんだもの。人生がとてもはりあいのあるものになるわ。」(村岡花子訳、新潮文庫から抜粋)

「野心」とは「分不相応な大きな望み」と辞典には載っています。「大いなる目標」といってもいいでしょう。自分の将来に「大いなる目標」をもつことは、人生をはりあいのあるものにしてくれる！これはとても素晴らしいことですね。「野心」とまではいかずとも、その都度「目標」をもって生きることの素晴らしさをアンは教えてくれます。ところで、アンは「エイブリー奨学金」を取れたのでしょうか。それは、ぜひ、自分で確かめてみてください。